

かぜをひけばせきが出る  
かぜをひいたで  
妙好人  
念仏のせきが出る出る  
才市がご法義の  
かぜをひいたで  
妙好人  
浅原才市翁



No.74

2008年(平成20年)

3月1日

発行

浄土真宗本願寺派  
和歌山教区日高組責任者  
鈴木悟峰

真宗法座の風景(連研受講者によるおつとめ)

## 『眞実の世界のありか』

阿弥陀さまは、私たちの往生成仏の道を示して下さいます。私たち衆生は、辺より無辺に生まれて阿弥陀さまと同じ悟りを得るのです。限りある私達が、阿弥陀さまから無限の悟りをいただくことです。

それを、おシャカ様にたずねた人がいるのです。自分の子が父を殺し、自分も子どもに殺されかけた韋提希という女性です。「觀經」には阿弥陀仏の世界に生まれたいと願う韋提希におシャカ様は、阿弥陀さまがおられるところはここから遠いところであり、遠くないところであるよと説かれています。このことは、矛盾しているようですが、おシャカ様の説法に矛盾はありません。阿弥陀さまの人々を救うぞということばを聞けば(南無阿弥陀仏に出逢えば)、あらゆる数量的な分別を超えて、仏と凡夫が同じ悟りを得る信心をいただくのです。

仏と一つでなく、仏さまと同じ悟りを開くというのはこのことなのです。阿弥陀さまのお慈悲に遇えれば、吐く息吸う息が止まつた時は、阿弥陀さまの世界に着いた時となるのです。これを即得往生といいます。ですから、十万億の仏土を過ぎたところで、あなたが遠からずと云われるのです。最後の「名づけて極楽といふ」とは、この西方十万億の仏土を過ぎたところにある阿弥陀さまの世界を「極楽」と名づけると、この一節が結ばれます。この極楽という語は「觀經」や「小經」に説かれ、「大經」には安樂とか安養とあります。

(水原)

阿  
弥  
陀  
經  
に  
聞  
く

# 法話

## 「ご縁の大切さ」

去年の年始めテレビで、昔、トルコの軍艦が沈没して、死亡された方の追悼法要のニュースが放送されました。百年以上前の出来事で、トルコの軍艦エルトゥールル号が親善訪問のため、日本へ来ていました。帰国途中、串本沖で大波により沈没したそうです。六〇〇名の方が死亡されました。生存者は、地元の人々の手厚いもてなしを受け、その後、日本の船で帰国したそうです。

# ふろこび家族

“生かされて生きる”  
由良町衣奈 西教寺門徒

中嶋 文子

(76)

私は子供の頃から勉強より遊ぶことが好きで友達とお寺の墓場でカクレンボしたり野の花をつんでは筒に入れて手を合わせた事を思い出します。十二才の

仏教の「華」といえば、蓮という植物であります。

この植物は、汚い泥の中に根を置き、泥の水の中を通じて成長し、やがて水面に

茎は真っすぐに伸び、泥を近か寄せず、汚れない華を咲かせます。蓮の華は泥の中で咲きます。その蓮

花を咲かせます。蓮の華は泥の中で咲きます。その蓮の華が育つ姿は、私の心の中で喩えられたものです。



## 門徒心得

### れんげ 蓮華は象徴する華

親鸞聖人は、「入出二門偈」に「高麗の陸地には蓮華を生ぜり。これは凡夫、煩惱の生ぜん。蓮華を生ずるに如來の本弘誓、不可思議力を示す。」とあります。コスモスやヒマワリなどの植物は、陸地で

根を張る泥の中といわれます。私達は、その時、その場を衝動で生きています。わが身を煩わし、わが心を

悩して、自己中心の煩惱の心にあって、自分の姿さえも気づきはしません。しかし、阿弥陀さまのはたらきは、いつも変わらず至り届いています。

この私の煩惱で満ちた心中に穢れた不浄の処へ、阿弥陀さま側から願わずに阿弥陀さまはおれないのです。救いの目当てとなるのは私であります。その私の姿が気づかれた時、少しながらも心に変革がまいつきます。阿弥陀さまのはたらきはそのまま私の心に生じて下ります。そのまま私の心に生じて下さります。阿弥陀さまのお徳に変えて下さるとそこから、蓮の華は、最も象徴とする華なのです。(荻野)



### 第13回 日高組「真宗法座」

「真宗法座」は、日高組における連続研修会(連研)の「聞法の集い」として、今年度から開催し、今年度で第十三回となりました。この度のご講師は、大阪教区大阪西組覚円寺住職、豊島学由師で、宗教の本質」

表紙の写真は、「聞法の集い」に先立ち受講者による「正信偈」のお勤めをする場面です。研修中に練習を重ねた成果を発表していました。

日高組における連続研修会は、現在七期目で、受講者十五名の研修中であります。お話を聞かせていただきました。記憶にある方も居らることでしょう。

この「聞法の集い」は、今年も十二月頃に開催する予定です。開催につきましては、各寺院を通じてお知らせ致しますので是非ご参加下さい。

日高組における連続研修会は、現在七期目で、受講者十五名の研修中であります。お話を聞かせていただきました。

# 日高組寺院めぐり

**浄明寺** (由良町大引)  
第十五代住職 萩野一雄

**沿革** 当寺院は、真言宗であつたとも伝えられています。文明から文龜の年代（一四六九）一五〇三）に、当地の西道とう人が、有田郡宮原の祐尊（福蔵寺第二住職）に師事して真宗に帰依したといいます。

永正三年（五〇一）七月に、本願寺第九代實如和尚から方便法身尊形（繪像）を下賜されました。それを安置するため、惣道場を建立しました。天正十四年（五八六）九月に本堂を再建し五〇年後の寛永十三年（六二二）に淨明寺の寺号公称が許されました。また、お木像の本尊阿弥陀仏像は寛永七年（一六四〇）に出願していましたが、申し替えていましたが、申し替えによりて享保二年（一七一七）に第十四代寂如上人から下賜されています。さらに、天保十四年（一八四三）九月に本堂を再建し、当地の門徒方は、自分の仕事をなげうつて、一丸となり本堂の再建に務めたと聞きます。



# 真宗Q&A

死後どうなるかという事に関連して、戒名を授かるのに何十万円とかかるのが納得できません。いくらお金を払ったかで死後の国（がもあるのだとすれば）での位が決まるのは、死後も人間は平等でない、死後ですら魂は現世の束縛から解放されないのだ、と言われているような気がしてなりません。その点を授ける側はどうのようにお考えでしょうか。

昭和五十六年（一九八一）七月には、本堂の屋根修復を行い現在に至ります。本堂の内陣の余間に、龍の彫刻の欄間があり、那智勝浦町の青岸渡寺の欄間と同じ細工人と伝えられています。また、喚鐘も古く三〇〇年を越え、貞享二年（一六八五）四月二十一日、当

地の仁太夫の妻が寄進したと彫られております。『その他』三年前から、二回春と秋に本堂をボランティア・ひまわり会に開放しています。寺離れの現在、新しい活動のご縁を頂いている次第です。

## 大谷

私たちの浄土真宗では法名（戒名は戒律を守る人に与えられる名）であつて、私たち在家仏教の者には仏法に帰依した名として法名と言います）が帰敬式を受けた際に授与されます。釈尊の弟子という意味

## 日高組通信

### ★行事報告

#### 「真宗法座」

十一月十六日、浄明寺に於いて、第十三回真宗法座

が開催されました。多くの方々のご参加をいただき、連続研修受講者による「正

で「釈〇〇」とします。仏

教徒としての自覚を持つて生きることが基本です。茶道や華道で名前をもらう例

から類推してください。し

たがつて、生存中に式（帰

敬式）を受けて名前をもら

うのが望ましいのですが、生存中にその機会がなかつた場合は、葬儀の折に名前をもらうことになってしまいます。

生存中にその機会がなかつた場合は、葬儀の折に名前をもらうことになってしまいます。

同じ日本仏教でも宗派ごとに考え方が異なるので、他宗派のことは私から言えませんが、仏教全般にわたって、死後どうな

るかはお金と直接関係はありません。この世の人生をいかに生きたか、仏法を聞いたかどうかが重要です。

大谷光眞ご門主ご著作

「世のなか安穏なれ」より

ざし、各寺院の現在と未来等についての話し合い法座を開催しました。

### ・総代会後期研修会

二月二日、念興寺に於いて、ご講師に有田北組西方寺住職、田口敏明師を招き、「葬儀について」と題

し、真宗の葬儀の意義・あり方等について研修会を開催しました。

三月十五日（土）、各部長、会長等による十九年度の事業経過報告、並びに二十年度における事業計画について、委員会を開催します。

### ★行事予定

#### ・基幹運動推進委員会

三月二十九日（土）、平成十九年度定期組会を住職、各寺の門徒組会議員等により、本年度の事業報告、会計報告、次年度の事業計画、予算（案）等について協議会を開催します。

#### ・組会

三月二十九日（土）、平成十九年度定期組会を住職、各寺の門徒組会議員等により、本年度の事業報告、会計報告、次年度の事業計画、予算（案）等について協議会を開催します。

